

活用事例	4 授業中に地震・火災が発生し、避難経路を変更しなければならなくなった場合の避難訓練 【特色】 ブラインド方式、火災発生を踏まえた適切な避難経路の選択		
学校名	岩国市立東中学校		
日時	平成25年12月5日(木) 6時間目		
場所	運動場	参加者	生徒・教職員及び消防署職員

1 訓練のねらい

本校では、今までいわゆる火災を想定したグラウンドへの避難訓練や、小学校と連携して地震・津波を想定した近隣の施設への避難訓練を実施してきた。一定の成果は上げてきたものの、より緊迫感のある訓練とするため、初めてブラインド方式の訓練に取り組もうと考えた。

これにより、ある程度不安な状態の中でも人的・物的損害を最小限に抑制するための正しい行動が取れるよう、教職員・生徒の防災意識や危機管理意識の向上を図ることをねらいとした。

2 訓練の概要

(1) 事前指導～生徒へ

平成25年11月29日(金)、終学活を延長して、担任による15分間の事前指導を行った。

ア 地震による火災を想定した訓練のための事前指導であること。

イ 避難訓練は、12月に入って日時の予告なく行うこと。

ウ 訓練の際、自分がどこにいるかはわからない。資料の「地震が起きたら」「火災が起きたら」をもとに、場所に応じた対処方法を考えること。

地震が起きたら

1) 授業中や休憩中の地震が起きたら

- 教室にいるとき
 - 机の下にぞり、席下物から身体を守る。
 - 机の下が空いていないときは、頭の上に乗(置く)か手を机の上に置く。
 - 机裏が収まっても先生の指示があるまでもどっている。
 - 収まったら先生の指示で避難場に避難する。
- 廊下、昇降口にいるとき
 - 近い窓辺の壁際に入り、頭を抱えて机の下にもどる。
 - 避難が終わったら先生の指示で避難場に避難する。
- 校庭、体育館にいるとき
 - 校舎や窓際から離れ中央に避難。
 - 地震が終わったら避難場へ。

2) 学校、下校中に地震が起きたら

- 道端を歩いているとき
 - 靴、物袋、カバンから離れ、しゅがんで頭を守る。
 - むやみに動かないこと。
 - 避難が終わったら、車や降下物に注意しながら、家や学校に戻る。

途中の家に避難した場合は、そこから自宅や学校に避難してもらい迎えを待つ。

- 車や歩道橋で地震が起きたら
 - 近い窓際で急いで降り終える。
 - 揺れが激しい時は、その場にしゅがみ、頭を守る。

3) 逃げかけているとき地震が起きたら

- 校外学習などのとき
 - 先生の指示に従って行動する。
 - 先生の上止めた場所には立ち止まり、学校で訓練したことを実践する。

神田川東地区の避難訓練マニュアル

火災が起きたら

1) 廊下から逃げるとき

煙は上へはるかたよって行くので、避難を早くして安全な場所に避難しよう。

2) 廊下の煙

煙は天井付近にたまり、そこから床*に下に降りてきます。煙は呼吸をさせません。これを避けると呼吸が楽になります。床*はなごころもあり火災危険です。煙の進む速さは、上昇するときに毎秒約1～5m(かげ足の速さ)、横への広がりは毎秒約0.5～1m(歩く速さ)です。

3) 避難時の心構え

お 目を閉じていないで、人を転がさないためです。人が倒れると、他の人も前に倒れやすくなります。

は 走らない。教室内では走りません。自分も転がらないためです。

し しゃべらない。大切な放送などを聞き逃さないためです。話し合おうとする中で、間違った情報が広がることもあります。

も もどらない。大切なものを忘れたからといって、いったん避難したなら廊下の中へ戻ってはいけません。

- ・教室の静寂に慣らす。
- ・避難経路の確認。
- ・煙を避けながら、
- ・しゃべらないで、
- ・転がらないで、
- ・走らないで、
- ・しゃべらないで、
- ・目を閉じて、
- ・呼吸を止める。
- ・煙を避けながら、
- ・しゃべらないで、
- ・転がらないで、
- ・走らないで、
- ・しゃべらないで、

©国体協・消防庁・消防団の協力を得て作成

エ 避難経路と集合場所を確認しておくこと。(放送をよく聞き、教職員の指示に従う。火元の近くを通る階段・廊下は使用しない。上靴のまま運動場に出る。)

オ 総務委員に人員確認報告のしかたを練習させておくこと。

カ 笑い声のあるような訓練にならないよう、緊迫感をもって取り組むこと。

(2) 事前指導～教職員へ

初めてのブラインド方式訓練であるので、教職員には実施日時をあらかじめ知らせていた。以下の二点に重点を置いて事前の打ち合わせをした。

ア 第一に、これは教職員の訓練である。指示に従わない生徒、ルールを守らない生徒がいたとしても、全員を安全に避難させることが必要。避難ルートは、火元を避け、廊下の混雑状態も見ながら、各授業担当で判断指示すること。

イ 避難後の安否確認が重要。生徒だけでなく、各学年部において、所属教職員の安否も確認し、確実に報告すること。

(3) 避難訓練

平成25年12月5日(木)6校時(14:30～15:20)に避難訓練を実施した。

ブラインド方式の避難訓練のため、6校時の日課は通常通りとした。すなわち、生徒は必ずしも学級ではなく、音楽室、美術室などの特別教室で訓練放送を聞く状態をつくった。また、避難経路は放送では大まかに指示し、火元に近い階段・通路は使用しないという条件の下、その場で判断することとした。

ア 授業開始5分後

地震の音(家屋・家具の揺れを表現したもの)を放送。

続いて教務主任が訓練放送。

「訓練。訓練。大きな地震が発生しました。揺れがおさまるまで、机の下などに隠れてください。」

教職員も生徒も安全な場所に身を隠す。

イ 約30秒後

教頭が火災の発見と初期消火の失敗を教務主任および事務担当に報告。それを受けて事務職員が119番に訓練通報。教務主任が訓練放送。

「訓練。訓練。ただいま、1階西の調理室より出火しました。全員 中央階段・東階段から速やかにグラウンドに避難してください。（2回繰り返し）以上。」

ウ 放送終了後

各授業担当教員の指示で避難開始。総務委員生徒が先頭。教員は最後尾。授業のない教職員は、あらかじめ決められた階の避難を支援した。

「おはしも（おさない・はしらない・しゃべらない・もどらない）」を守ってグラウンドへ避難。

グラウンドに出たら走り、決められた位置に各学級2列で集合。

エ 避難開始から3分29秒後

全員無事避難完了。

オ 校長講評

カ 岩国市消防組合中央消防署より講評及び消火器操作の指導

- ④ 初期消火には屋内消火栓が有効。ただし、訓練しておかないと使えない。
- ⑤ 地震が起きたら、できるだけ開口部を確保（戸を開けておく）。
- ⑥ 火事が起きたら、酸素の供給を絶つために戸を閉める。
- ⑦ 先生の言うことを聞くことが大事。一部しゃべっている生徒がいたが、先生が厳しく指導し、それからは緊張感が出た。それくらい熱意をもって取り組んでいるのは良い。命に関わることなので、本気で指導することが大切。

(5) 教職員の気付き

訓練後の教職員へのアンケートの中から、主な気付きを挙げる。

- ① 抜き打ちで行う訓練は大変良いと思う。
- ② 生徒の動きもとても素早く、抜き打ちの避難訓練としてはすばらしかった。
- ③ 中央階段、東階段で混み合うと思ったが、意外にスムーズに動けた。次は、休み時間等で訓練を試みたい。
- ④ 大変スムーズに避難できたと思う。訓練である以上、限界はあるが、生徒も教職員も現実感をもって真剣に訓練に取り組んでいくことが重要と感じた。日頃の生活指導はもとより、事前指導の大切さを痛感した。



3 訓練の成果と課題

【成果】

生徒に対するブラインド方式訓練は、一定の成果を上げることができた。避難時間も、本校の規模としてはひとまず十分に安全に避難できたと判断できるものであった。

教職員も、廊下の込み具合などをその場で判断し、適切な避難経路の指示ができた。また、生徒のみならず、各学年部の教職員の安否についても、非常勤講師を含め、確実に把握することができた。訓練の際、教職員の安否は忘れられがちになることがあるので、これを意識付けられたことには意義があった。

【課題】

来年度は、休み時間の訓練も視野に入れ、教職員・生徒ともにブラインド方式で実施することを検討したい。

火災の発見、初期消火、火災の連絡については、更に現実感をもった訓練が必要と感じた。無害な煙を発生させて火災報知器を作動させ、それをきっかけに避難する等の工夫を考えている。また、トイレなどにとどまっている生徒等がないかの確認については十分でなかった。あえて生徒や教職員が行方不明の状態を作り出し、捜索する活動を設定することも考えられる。

生徒については、各自が避難することはできたが、発達段階からすれば、けが人や速く歩けない仲間などをどう手助けするかということも体験させ、考えさせることが必要であると感じた。

(4) 消防署からの事後指導

訓練に際しては、9名の消防署員が、校舎各所に分かれて観察を行った。

事後、教職員の動きに対して以下のような指導・講評をいただいた。

- ① 通報訓練の方法は大変良い。
- ② 避難指示も具体的であり、どこで何が起きており、どこに逃げるかが明確。
- ③ 火災発見、初期消火、火災の連絡も訓練すると良い。